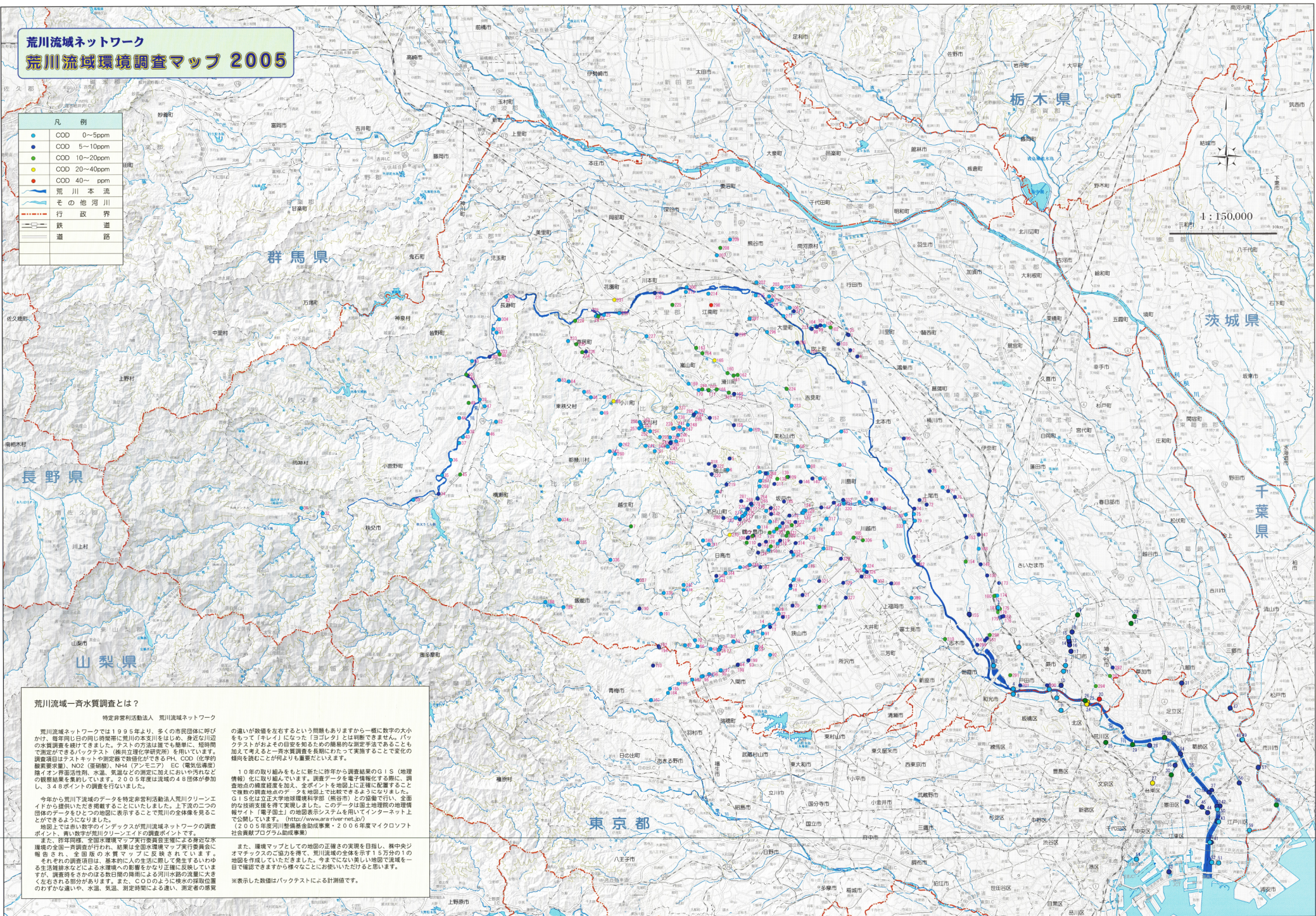


荒川流域ネットワーク 荒川流域環境調査マップ 2005

凡 例	
●	COD 0~5ppm
●	COD 5~10ppm
●	COD 10~20ppm
●	COD 20~40ppm
●	COD 40~ ppm
—	荒川本流
—	その他河川
- - -	行政界
—	鉄 道
—	道 路



荒川流域一斉水質調査とは？

特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク

荒川流域ネットワークでは1995年より、多くの市民団体に呼びかけ、毎年同じ日付の同じ時間帯に荒川の本支流をはじめ、身近な川辺の水質調査を行っています。テストの方法は誰でも簡単に、短時間で測定できるバクテラテスト（株式会社理化学研究所）を用いています。調査項目はテストキットや測定器で数値化ができるPH、COD（化学的酸素消費量）、NO₂（亜硝酸）、NH₄（アモニア）、EC（電気伝導率）、インゲン界面活性剤、水温、気温などの測定に加えにおいや汚れなどの観察結果を裏付けています。2005年度は流域の48団体が参加し、348ポイントの調査を行いました。

今年から荒川下流域のデータを特定非営利活動法人荒川クリーンエイトから提供いただくを掲載するようになりました。上下流の2つの団体のデータをひとつの地図に表示することで荒川の全体像を見ることができるようになりました。（<http://www.arakawa-net.jp/>）
地図上では赤い数字のインゲン界面活性剤が荒川流域ネットワークの調査ポイント、黒い数字が荒川クリーンエイトの調査ポイントです。

また、昨年同様、全国水環境マップ実行委員会主催による様々な水環境の全国一斉調査が行われ、結果は全国水環境マップ実行委員会に報告され、全国の水環境マップに反映されています。それぞれの調査項目は、基本的に人の生活に際して発生するいわゆる生活排水などによる水環境への影響をかなり正確に反映していますが、調査時をさかのぼる数日間の降雨による河川水質の急激な変動も左右される部分があります。また、CODのように採取位置のわずかな違いや、水温、気温、測定時間による違い、測定者の感覚

の違いが数値を左右するという問題もありますから一概に数字の大小をもって「キレイ」になった「ヨコレタ」とは判断できません。バクテラテストが本来の目的を達成するための簡単な測定手法であることも加えて考えると一斉水質調査を長期にわたって実施することで変化の傾向を読むことが何よりも重要だといえます。

10年の取り組みをもとに新たに昨年調査結果のGIS（地理情報）化に取り組んでいます。調査データを電子情報化する際に、調査地点の緯経度を追加し、各ポイントを地図上に正確に配置することによって複数の調査地点のデータを地図上で比較できるようになりました。GIS化は立正大学地球環境科学部（熊谷市）との協働で行い、全面的な技術支援を受けて実施しました。このデータは国土地理院の地理情報サイト「電子国土」の地図表示システムを用いてインターネット上で公開しています。（<http://www.arakawa-net.jp/>）（2005年度荒川一斉水質調査活動成果集・2006年度マイクロソフト社会貢献プログラム助成事業）

また、環境マップとしての地図の正確さの裏面を目指し、熊中ジョスマチックスとの協力を得て、荒川流域の全体を示す15万分の1の地図を作成していただきました。今までにない美しい地図で流域を一目で確認できますから様々なことにお役立ただけと想います。

※表示した数値はバクテラによる計測値です。